

活用技術

平成 20 年度

砂丘状丘陵地アカマツ林における A _o 層除去の菌根性きのこシモコシへの有効性		
[要約] 砂丘状丘陵地のアカマツ林において、除伐と A _o 層除去を行うことで、林地の富栄養化を遅らせ、菌根性の食用菌シモコシの発生数を増加させる。		
森林研究所 きのこ・特産課	連絡先	TEL : 0254-72-1173 FAX : 0254-72-0019

[背景・ねらい]

県内の海岸のクロマツ林やその内陸に続くアカマツ林は、手入れがされず、落葉広葉樹や雑草が繁茂する状況になり、従来食用として採取されていたアマタケやシモコシ（きだけ）などが発生しなくなったと言われている。そこで、砂丘状丘陵地のアカマツ林において、アカマツ保育のために A_o層の除去作業の行なわれた地域の菌根性きのこ相の調査と、その地域においてきのこ発生環境改善施業としての除伐と人力による A_o層除去を行い、これら作業がシモコシの発生に有効に働いていることを示す。

[成果の内容・特徴]

- 1 地上に堆積した A_o層の乾重量はヘクタール当たり平均 8.47 t で、場所によっては 11 t を超える。(表 1)
- 2 シモコシは、1996年と2001年に施業を実施した区では、施業後調査期間内はコンスタントに発生していたが、1996年だけに施業した区では、施業後 9 年後になる 2004 年から発生数が減少している。なお、発生数は 300 m² に発生した実数である。(図 1)

[成果の活用・留意点]

- 1 除去した A_o層は、林内に放置せず、なるべく林外に搬出する方がよい。

[具体的データ]

表 1 試験地の状況

PLOT	立木本数	平均胸高直径	Ao層乾重	うち落枝乾重
1	956	19.3	11.10	4.83
2	1022	15.5	5.84	1.18
平均	989 本/ha	17.4 cm	8.47 t/ha	3.00 t/ha

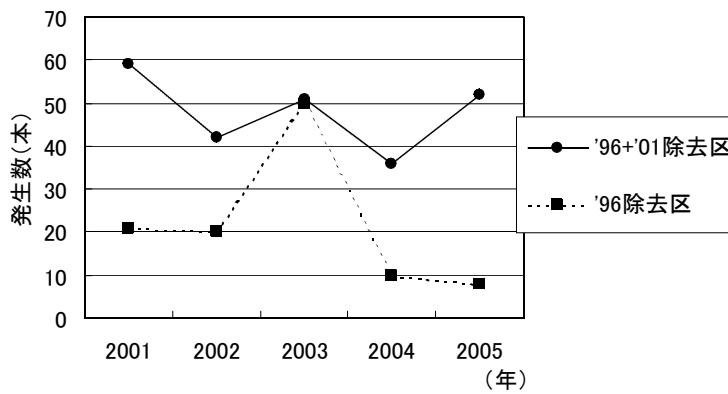


図 1 シモコシの年別発生数(2001-2005)

[その他] 研究課題名：アミタケの林地栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成13～17年度

発表論文等：新潟県森林研究所研究報告第48号(2007)